4/19/2016

＊キリスト教学演習＊＊＊＊

S. Ashina

＜前回・オリエンテーション＞

Ａ．テーマ：キリスト教思想の基本文献を読む

キリスト教思想を理解し、研究するには、その基本的な文献を広くまた深く読むことが必要である。この演習では、近代以降のドイツ語による文献を精読することによって、キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上をめざす。

今年度は、ティリッヒの教義学に関わる文献から、次のものを取り上げ、演習を行う。

Ｂ．テキスト

Paul Tillich, *Frühe Vorlesung im Exil (1934-1935)*

(Ergänzungs- und Nachlaßländе zu den Gesammelten Werken XVII, De Gruyter, 2012)

Ｃ．成績などについて

・平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）

・使用するテキストについては、コピーを配布する。

・参考文献：授業中に紹介する。

・受講生には、キリスト教思想に対する関心と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（木２・金３）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うことができる。

Ｄ．授業（予習＋出席・発表＋復習）の進め方

・演習参加者の役割

(1)授業前：読み・訳す・分析する　→　問題点・補足事項。

(2)授業での発表：順番に読み・訳す。質疑。討論。

(3)授業後：残った問題を検討する。

・前期半期：4/12, 19, 26, 5/10, 17, 24, 31, 6/7, 14, 21, 28, 7/5, 7/12, 19

・次回：4 月 19 日は、「導入講義２」を行い、メンバーと担当の確定を行う。

演習は 4 月 26 日から開始。

＜導入講義２＞

１．ティリッヒ思想の発展史

初期：第一次世界大戦前

前期：第一次世界大戦後～アメリカ亡命

中期：アメリカ亡命～第二次世界大戦

後期：第二次世界大戦～ 1950 年代

晩年期：1960 年代

↓

発展史の時期区分：思想のどのレベルに注目するか、メルクマールをどう設定するか

２．ティリッヒ研究の大きな流れ

・1970 年代まで：後期の神学体系を中心に

・1980 年代～：初期前期のティリッヒ

↓

課題：

・初期前期の研究を経た、後期の思想研究

・中期ティリッヒ研究

３．中期ティリッヒ研究のテーマ

(1)ティリッヒの政治思想

亡命地におけるナチズムとの闘争

ヒルシュとの論争（ヒルシュ／ティリッヒ／バルト）

・芦名定道「Ｐ．ティリッヒの宗教思想研究」（1994 年）

第５章：カイロス論と歴史解釈

第１節　バルト・ティリッヒ・ヒルシュ

第２節　宗教社会主義論

第３節　カイロス論の形成と展開

第４節　キリスト論と歴史解釈

第５節　動的真理論と歴史相対主義

第６節　希望とユートピア

注

・Religion und Weltpolitik, 1938?

Das Evangelium und der Statt, 1938

Paul Tillich. *Gesammelte Werke*. Band IX, S.139-192, S.193-204.

・Karin Schäfer, *Die Theologie des Politischen bei Paul Tillich unter besonderer Berücksichtigung der Zeit von 1933 bis 1945*, Peter Lang, 1988.

(2)前期と後期の比較あるいは前者から後者への移行

・「問いと答え」

・意味に形而上学から存在論的人間学へ

・ハイデッガー受容

・社会思想から精神分析へ

↓

今年度のテキスト、Paul Tillich, *Frühe Vorlesung im Exil* (1934-1935) の意義

さらに、ENGW.XVIII：*Frankfurter Vorlesung*（1930-1933）を視野に入れれば、より精密な議論が可能になる。